

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校

校長名：笹 井 晋 吾

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・自ら人生を切り拓く人を育てる学校
- ・自己の在り方生き方について主体的に考え、高いレベルでの自己実現に向け、幅広い教養と課題解決能力を身につけた生徒
- ・「文武両道」の実践を通して自主性と人間力を高め、トップリーダーとして社会に貢献できる力を身につけた生徒

学校評価の公表方法

保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

| | | | |
|--------|---|------------|---------|
| 現状・進捗度 | A | 十分に達成している。 | (80%以上) |
| | B | 概ね達成している。 | (60%以上) |
| | C | あまり十分でない。 | (40%以上) |
| | D | 不十分である。 | (40%未満) |

自己評価（分析、計画、取組、評価）

| 番号 | 計画・取組 | | | 評価（2月24日現在） | | | |
|----|---|----|--|---|-----|---|---|
| | 重点目標 | 現状 | 具体的取組 | 評価項目と評価指標 | 進捗度 | 進捗状況 | 今後の改善方策 |
| 1 | 高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実及びキャリア教育充実深化に向けた具体的方策の構築 | B | キャリア桐の葉での経験・思考・発信・振り返りのサイクルによるプログラムの実施 | ・具体的な取り組みが系統立てて出来、文章による振り返りがなされたか。 | A | 桐蔭ゼミナールの新たな取り組みも始めることで年間プログラム項目を整理できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動が必須となる中、桐蔭ゼミナールの取り組みの充実が求められる。テーマ設定の方法に工夫を要する。 ・「系」選択の場面で、真剣に志望校と自分の学習状況を判断させ具体的に学習に取り組みしていく工夫が必要。 ・早期からの大学入試に向けた意識付けが必要。各学年の進路アセンブリーや、進路 LHR の内容の見直しを検討。 |
| | | | 学年集会や面談時の資料、進路だより、LHR による情報提供及び生徒の高い志望をあきらめさせない支援 | ・難関大学出願者数 120 名 ・進路アセンブリーの内容と持ち方、実施時期 ・進路だよりの内容と発行時期 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・難関大学出願者数 61 名 (医含む) ・各学年進路アセンブリー実施 ・2 年生保護者向け進路講演会実施 | |
| | | | PD 宣言のもと中高全教員が研究授業・定期考査問題作成により授業力を付け「系」の求めるレベルの授業を実施する。「系」選択が生徒自身の意思決定でなされるよう情報を提供する | ・研究授業および研究協議が実施できたか。 ・「系」選択が生徒自身の意思決定でなされ、求める授業内容が実施できたか。 | B | 研究授業への取り組みに積極性が足りなかった。「系」ごとの授業に関しては志望校を意識した取組が見られた。「系」決定には多くの生徒が志望校を意識して出来た。 | |
| 2 | 主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上 | B | 学習意欲や目的意識を喚起させる質の高い授業の展開。観点別評価における各教科のルーブリックの研究と作成。 | ・課題解決のために自ら考えさせる授業が展開されているか。 ・評価の基準が明確に示されているか。 | A | コロナ渦であるものの、少しずつ活発に議論が行える環境となり、様々な授業展開が工夫され、実践されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲や目的意識を喚起させ、自律的に学習できる仕掛けを工夫していく。 ・共通テストと個別学力試験対策のバランスを考慮しながら、より生徒の実態に応じた補習形態に改善していく。 ・観点別評価における各教科のルーブリックの研究と作成を進めていく。 |
| | | | 3 年生夏期補習や 2 次対策個別学習指導の充実。学習支援プログラムの充実。 | ・生徒の実態に応じた教材を用い、適切な指導が行われているか。 ・添削指導や質問対応の実施状況。 | A | 夏期は約 30 の講座、冬期は共通テスト対策と 2 次対策の講座と個別の添削指導を志望校に対応させて行った。 | |
| | | | 学年会、教科会での情報交換、協議の実施。定期考査の分析および対策。 | ・考査問題が生徒評価に適正なものであるか。 ・家庭学習用課題や小テストが適正であるか。 | B | 教科内での観点別の評価方法や、授業の進め方等議論が多くもたれている。教科間での情報の共有も行っている。 | |
| 3 | 生徒の自主的・自律的な生活習慣の確立と生徒支援の充実及び生徒の主体的な活動を支援する取組の充実 | B | 自己責任の遅刻を 5 回以上繰り返す生徒への指導や、日常的な身だしなみ指導。 | ・遅刻者数の増減と個々の事情の把握ができたか。 ・生徒が自主的・自発的に行動し、自己管理能力を身につけることができたか。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・高学年ほど遅刻が多い。 ・一部を除き、ほとんどの生徒は正しい身だしなみで生活できている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登下校中の交通事故の報告が 10 件以上あり、規則正しい生活をして安全に余裕を持って登下校するように指導していく必要がある。 ・心の不安定な生徒に対しては、ケアも含め生徒にあった声かけをしていく必要がある。 ・特別活動については、量を拡充させることではなく、生徒が質的な追及を行いやすい仕組みを作る必要がある。 ・部活動のあり方については、時代が転換点を迎えており、趨勢を注視していく。 |
| | | | 教育相談体制の充実。生徒情報の共有と把握による生徒理解、並びに具体的な手立ての共有。 | ・カウンセリングの利用とケース会議の実施が適切に行われたか。 ・具体的な情報共有ができたか。 | B | 教育相談を年間 100 回以上実施し、その都度ふり返りを行い情報共有することができた。また、ケース会議を持つことで情報共有に努めた。 | |
| | | | 生徒会を活性化し、生徒の主体的な行事運営を促す。効果的な LHR 計画構築する。部活動を支援する。 | ・生徒会活動や行事活動、LHR の内容と時間が適正か。 ・部活動満足度や退部者数が適正か。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動に関わる時間は、ある程度確保でき、充実した行事を開催できた。 ・部活動満足度については継続調査する。 | |

学校関係者評価（3月9日実施）

・桐蔭ゼミナール等新たな取組をしていることは素晴らしいと思う。コロナや変わっていく情勢に素早く対応していることも評価できる。ただ、番号 3 の進捗度がすべて B というのが少し気になる。交通事故や心のケアにもしっかりした対応をお願いしたい。

・キャリア桐の葉では、先生が生徒の年齢に応じた取組を系統的に指導されており、将来、社会を生き抜くために必要となる力を身につけることができる実践的なキャリア教育が実施されていると感じた。

・センター試験と共通テストとの違いをどの教科の先生方もよく分析されており、心強く感じた。

・生徒自らが能動的に学びたいと感じさせるための“刺激”を与えることが重要であることから、県内経営者等による講義だけではなく、海外の同世代の優れた学生等との交流など、生徒が動機を創出するような機会を頻繁に提供していただきたい。

・育てたい生徒像に対する教育実践が十分ではないと感じる。今の桐蔭高校の教育は「たゆたえども沈まず」という感じの教育で、地にしっかりと足をつけた教育が強く求められているのではないかと。県内外の他校への教員研修が不可欠だと思う。

・内進生の自主性・独創性をさらに引き出すべく、生徒ごとの適性も踏まえながら、刺激を与え続ける必要がある。高校入試を経て入学してくる者のためにも、内進生は、自主性・独創性を備えたロールモデルとしての役割も期待すべきである。

・問題探求能力・思考力・表現力等、今求められている生徒の能力を開花させるためには、教科毎に担当教師が相互に授業の仕方（例えば、教科書やデジタルコンテンツの使い方）の意見交換をもっと図るべきである。

・生徒は社会性やコミュニケーション能力が高く、高校での教育効果があがっていると感じる。加えて困難な問題に立ち向かう力強さや粘り強さが養えればさらに素晴らしいと思う。